



# 教えて！北海道百年記念塔 どうして解体されるの？ 止められないの？



## そもそも北海道百年記念塔って何？

**北海道精神の象徴です。先人を慰霊し、未来への決意を示すため建立されました**

札幌市厚別区野幌森林公園に昭和43年の「北海道百年」の中心事業として「開拓記念館」（現北海道博物館）、「開拓の村」と共に建立された高さ100mのモニュメントです。当時の町村金五知事は、道民の総意でこの塔を建てたいと「北海道百年記念塔建設期成会」を設立し、建設費5億円の半額を道民の寄附で賄いました。そして記念塔を建てる場所として「野幌森林公園」を造成しました。町村知事は、道民が折に触れてこの塔を仰ぐことで、北海道に生まれた誇りと開拓の困難を乗り越えた先祖への感謝、父祖の偉業を引き継ぐ誓いを新たにすることを期待しました。



右に記念塔、左に開拓記念館（現北海道博物館）。前方の拓けた石狩平野を見て祖先の成し遂げたことの偉大さを思い、後方の原生林を見て祖先が挑んだ困難の大きさに想いを寄せる厳粛な誓いの場としてつくられた（撮影：KEN GOSHIMA）

## 記念塔にはどんな価値があるの？

**背景、設計、技術、デザイン…国の重要文化財にもなりうる建築文化遺産です**

百年記念塔の建設では、北海道で初めて設計コンペが行われました。黒川紀章など全国から299作品が集まり、選ばれたのが当時29歳の今町出身・井口健先生の作品です。先生は「収斂と拡散」をコンセプトに数式を駆使した精緻な設計によって塔をデザインしました。建材には、錆の皮膜で内部の腐食を防ぐ「コルテン鋼」という当時の最先端素材を採用しました。百年記念塔はコルテン鋼を用いた現存する世界最大のモニュメントの可能性があります。建設の背景、設計思想、技術、デザイン……どれをとっても将来の国指定重要文化財としての資質を持っています。



ランドマークとして多くの学校の校章や校歌に用いられ、地域の歴史の一部となってきた（撮影：池内正紀）

## 残したい人だけで金を出して守ればいいんじゃないの？

**地域には先人に感謝を捧げてまちづくりの想いを新たにすることが必要です**

「今だけ・金だけ・自分だけ」という風潮が広がる中で、道民が感謝と決意を示すシンボルを保持し、将来世代の歴史文化遺産として遺すことは「公共」の責任です。

北海道は世界でも希な極寒豪雪の地。そこをわずか100年余で欧州にも匹敵する豊かな大地に変えたのは誰でしょうか？ 郷里のために頑張ろうという決意の源は父祖への感謝です。そうした決意の象徴を否定して、どのように地域の振興を図るのでしょうか？ 北海道は10年連続人口減少全国一です。今こそ北海道百年記念塔は守られなければなりません。



①産経新聞（平成4年11月17日）。東京で本州から記念塔保存を支援する「北海道百年記念塔を支える会」が立ち上がった。この問題は全国問題になっている

②読売新聞（平成4年11月13日）。読売新聞は記念塔解体に疑義のあることを大きく取り上げた



③訴訟費用を確保するために Readyfor で住民訴訟支援プロジェクトを立ちあげた。2カ月余りで全国から850万円余の支援と1176人のメッセージが寄せられた

記念塔保全活動の詳細情報はこちらにアクセス  
<https://readyfor.jp/projects/100nenkinentou>

## 解体を止めるために今からできることはあるの？

**関心を寄せてください。知人友人に伝えてください。問題を広めてください**

平成4年10月義会で百年記念塔解体工事の契約を道議会が承認したことで、解体を止める方法は訴訟だけになりました。10月3日、私たちは87名の道民とともに、公有財産の善管義務を定めた「地方財政法」違反により、解体差止請求を札幌地裁に起こしました。あわせて訴訟費用を賄うためのクラウドファンディングを始めました。そしてわずかな間に全国から900万円近くの支援をいただきました。

官庁を相手にした行政訴訟はとても難しい裁判です。しかも解体工事はすでに始まっています。裁判官に「工事を止めてでも慎重に審議しなければならない」と思わせるのは「塔を守りたい」という全道・全国のみなさんの気持ちです。どうか、この問題に関心をお寄せください。知人友人にこのことを伝えてください。メッセージをお寄せください。世間の関心の高まりが塔を救います。

## 参加者大募集

記念塔裁判第2回口頭弁論に向け、世論を高めるべく次のアクションを起こします。ふるってご参集ください。

①1月22日(日) **記念塔を支える会現地視察**

13時北海道博物館前集合・現地ガイド・交流会参加者募集！

②1月23日(月) **テレビ塔～道庁アピールウォーク**

9時30分集合：テレビ塔から道庁まで歩いてアピール&申し入れ。自由参加

③1月23日(月) **記念塔裁判勝訴！決起集会**

日時：令和5年1月23日18時30分（開場18時）

場所：札幌市産業振興センター（札幌市白石区東札幌5条1丁目・地下鉄東西線「東札幌駅」徒歩7分）

参加：無料（事前申込なし）

④1月24日(火) **記念塔裁判第2回口頭弁論**

札幌地方裁判所（大通西11丁目）10時開廷  
満員の傍聴席で道民の想いを法廷に満たそう

※傍聴は申込不要で誰でも自由に入れます



# 道はどうして「解体する」と言っているの？

## 「構造的に老朽化を完全に防げない」「将来世代の負担軽減」が道の解体理由です

解体を具体的に決めたのは、平成30年12月の「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」という北海道百年事業で整備された「北海道百年記念塔」「野幌森林公園」「北海道博物館」「開拓の村」の今後のあり方を定めた計画です。このなかで記念塔は「今後の老朽化の進展を完全に防ぐことは困難」「利用者の安全確保や将来世代への負担軽減等の観点から、解体もやむを得ない」とされました。その後、道議会にこの構想の報告がなされましたが、記念塔解体が単独で議決されたことはありません。



①解体を決めた「空間構想」表紙

記念塔の外板パネルの穴あき、波打ち及び錆片の落下は、主に、雨水の塔内部への浸入や雨水が溜まりやすい構造に起因した腐食によるものと推定されますが、塔の構造上、雨水の浸入を完全に防ぐことや、これ以上の排水対策は難しいことから、今後の老朽化の進展を完全に防ぐことは困難であるとの結論に至りました。

このため、利用者の安全確保や将来世代への負担軽減等の観点から、解体もやむを得ないと判断し、その跡地には、新たなモニュメントを設置することとします（発展的継承）。

【※百年記念塔の安全性に関する検討は41ページを参照】

②記念塔は「空間構想」9Pのこの記述で解体となった。「老朽化」が理由ではない。老朽化を【完全に】防げないことが理由。そんな建物があるのだろうか？

6 現状と今後の維持管理経費等  
建設から50年近くが経過し、錆片が落下するなど劣化が進んでおり、平成26年7月から立入禁止としている。今後も維持していくためには、多額の費用負担が見込まれる。

【今後50年間の維持管理経費等（H29.10試算。税抜、耐震化経費含まず。）】  
①展示室への立入を可能とする場合 約28.6億円  
（立入禁止フェンス、落下事故防止屋根付通路の設置など）  
②モニュメントとして維持する場合 約26.5億円  
（立入禁止フェンスの設置など）  
③解体する場合 約4.1億円  
※①、②のいずれにおいても、今後、錆片などの落下を物理的に防ぐことは困難なことから立入禁止エリアの設置が必要。

平成30年9月の台風21号により、立入禁止エリア内に部材の落下があった。

7 安全性の検討

(1) 専門コンサルによる調査結果（平成29年度実施）  
ただちに倒壊する危険性はないものの、塔内の展示室に立ち入りできるよ帰した場合においても、今後、部材の腐食等による不測の落下事故を完全に防物理的にも不可能に近いことから、その対策として、立入禁止エリアの設定の設置、落下事故防止用屋根付きの通路が必要。

(2) 専門家ヒアリングでのご意見  
耐震性、耐風性の担保など安全性が第一である。錆片など飛散物もあること状を維持しようとして周囲に立入禁止エリアをつくっても、上部の鉄板が落下ことがあれば、安全とはいえないのではないか。

(3) 外板の素材メーカーによる調査結果（平成30年度実施）  
特定箇所に、外板パネルの穴あき、波打ち、及び錆片の落下が確認される。主に雨水の塔内部への浸入と雨水が溜まりやすい構造に起因した腐食によるものと推定。これ以上の腐食進行を抑制するためには、雨水の浸入を抑制するための対策や排水の工夫等の補修対応が必要と考えられる。

(4) 補修工事の可能性  
これまで、数次の大規模修繕や湿度対策工事などを実施しているが、構造上、雨水の浸入を完全に防ぐことや、これ以上の排水対策は困難と判断。

③「空間構想」41Pのわずか900文字が解体の根拠。50年間の維持管理費を試算した「H29.10試算」と安全性を検討した「専門コンサルによる調査結果」は「平成29年度北海道百年記念塔維持管理計画策定調査」という同じ調査。なぜか別な調査のように書いてある

# 維持するのに今後30億円もかかると聞いたけど？

## 平成23年管理計画で令和3年まで年間800万円で維持できるとなっていました

平成25年に行われた調査でも今後必要な年間の維持費は800万円でした。50年間で4億円です。しかし、平成29年に「今後50年間に6度の大規模修繕が必要だ」として突如20億円が加算されました。ところが情報開示を求めると、その20億円には内訳がないのです。道も「経費内訳はないものの業者において一定の根拠に基づいて積算されたものと認識しています」と認めましたが、未だに「一定の根拠」を示していません。けれども道の発表をそのまま報道するマスコミによって、多くの道民は高額な維持管理費を信じてしまいました。

① 早期に措置すべき事項 (単位:千円)	
低層部外板部材の腐蝕交換	334
主体鉄骨部材のひび割れ補修	511
主体鉄骨交差部の腐食補修	531
外板接合部補修、ボルト腐食部交換	620
角鋼管の腐蝕補修と防錆措置	31
外壁の改修、補修	789
展望室の天井補修	532
エレベータ機械室外部床板交換	1,291
外板腐食部補修	741
見学用階段手摺塗装	691
合 計	5,971

② 5年サイクルで定期的な措置すべき事項 (単位:千円)		
低層部外板部材の腐蝕防錆措置	全体を5年で更新	504/年
階層部の腐食床の撤去	全体を5年で更新	1,487/年
外壁ルーバー下端見切板の腐食改修	全体を5年で更新	2,217/年
合 計		4,208/年

③ 10年サイクルで定期的な措置すべき事項 (単位:千円)		
主体鉄骨の防錆措置	全体を10年で更新	3,644/年
角鋼管、取付アングルの防錆措置	全体を10年で更新	718/年
塔内清掃（北塔、南塔隔年施工）	全体を10年で更新	566/年
合 計		4,928/年

④年①×5年+②×10年+③×10年 /10年 年 8,000/年

⑤【平成25年度北海道百年記念塔維持管理計画策定調査】25p。赤線では今後10年間の記念塔の維持管理費は年間800万円となっている

また、経費の積算にあたっては、(株)ドーコンから各種工事の専門業者に対して、上記調査に基づき、修繕が必要な箇所数や人工数等を示した上で見積書を徴取したものと聞いており、調査報告書において経費内訳は示されていないものの、受託者において一定の根拠を持って積算されたものと認識しています。

⑥令和4年9月に道が突如公表した「質疑応答」なる説明資料9p。大規模改修の費用試算約20億円に内訳がないことを公式に認めた。コストにも根拠がない

道、百年記念塔解体へ 将来世代への負担懸念

道、百年記念塔解体へ 将来世代への負担懸念

④「空間構想」41Pの「(2) 専門家ヒアリングでのご意見」「(3) 外板の素材メーカーの調査結果」の出典の情報開示を求めると全面黒塗りだった。開示できない資料は根拠にならない

⑦北海道新聞（H30/09/05）。道の発表にはエビデンス（証拠）がない。しかしマスコミは調べることなく道の言うまま記事にする

# 結局、老朽化で危険だから解体するということ？

## 100年耐久設計のまだ50年目。塔体は健全で、倒壊の恐れは全くありません

空間構想の41pに解体理由が書かれてありますが、情報公開制度を通してその根拠を求めると「黒塗り」でした。道は説明はしますが、決して根拠を示しません。そもそも百年記念塔は100年耐久を条件に設計されました。令和4年に建築の専門家が行った内部調査でも「問題なし」と判断されています。平成30年に部材が落下して老朽化の根拠とされましたが、これは平成4年に後付けされた部材で、日常の点検を行っていれば防げたものです。道は平成25年頃から塔の維持管理の手を抜き始め、平成29年からは完全に放棄しました。部材の落下は老朽化よりも道の管理責任が問われる事態です。



⑧北海道新聞 (R2/06/21)。令和2年6月20日、道はマスコミを招いて落下部材を示し「老朽化」をアピールした



⑨令和4年7月3日「北海道百年記念塔の未来を考える会」内部調査写真。落下したのは赤枠の部材。定期点検で容易にぐらつきを発見できる場所にある

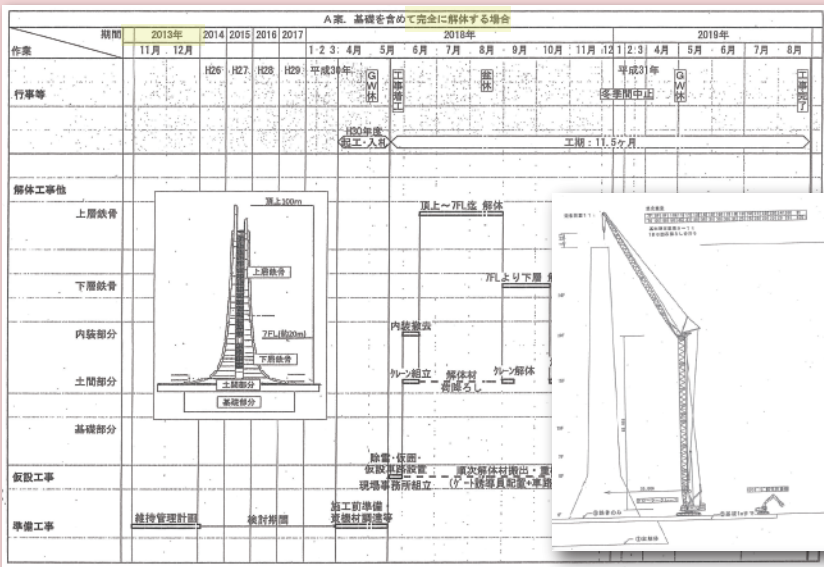
2 不在の理由	理由
①平成24年度から平成28年度までの書類については、保存期間(5年)の満了により廃棄しており、現に管理していないため。また、平成29年度から令和2年度、及び令和4年度の書類については修繕工事は実施しておらず、上記書類は作成していないため。	
②平成23年度及び平成25年度の上記書類については、保存期間(5年)の満了により廃棄しており、現に管理していないため。	
③緊急調査を実施した専門業者から聞き取りした際の報告書について、保存期間(5年)の満了により廃棄しており、現に管理していないため。	
④平成26年度に実施した北海道百年記念塔の定期点検の報告書について、保存期間(5年)の満了により廃棄しており、現に管理していないため。また、平成24年度及び平成25年度、平成27年度から令和4年度までは日常の巡回整備を除き、定期点検を実施しておらず、上記書類は作成していないため。	

⑩令和4年6月15日「公文書不存通知書」。定期点検は平成25年から、メンテナンス(修繕工事)は平成29年から放棄されたことが明らかになった。平成26年に錆片落下があったというその報告書も破棄している。危険ならなぜ定期点検をしないのか？

# だったら、なんで道はそんなに解体を焦るのかな？

## 解体を平成25年に密かに決め、管理の手抜きが問われることを恐れているようです

道内で「開拓」の排斥が進んでいます。北海道開拓は悪事だったかのようです。本来そうした風潮から守らなければならないのに、道は一緒になって開拓排斥を進めています。空間構想は記念塔解体の跡地に「多文化共生と多様性のモニュメント」を建てるとしました。道は「北海道の地域アイデンティティを開拓から多文化共生と多様性にしたい。北海道開拓の象徴は消し去りたい」と平成25年頃に考えたようです。密かに解体を決めて、維持管理の手を抜きました。解体中止になると管理責任が問われかねません。「解体ありき」で記念塔に問題があるかのように道民をミスリードしています。



⑪「平成25年北海道百年記念塔維持管理調査報告書」(H26/1/31)29pと33pの一部。道は記念塔解体の検討は平成28年からと言っているが、解体計画が経費内訳付きで詳細に述べられている。我々の追求めでしぶしぶ存在を認めたが、内容は未だに隠している



⑫ 建築の専門家グループ「北海道百年記念塔の未来を考える会」の令和4年7月3日内部調査写真。5年以上放置状態であったとは思えないほど塔体は健全で、少しの不安も感じられなかった